

獣医師の目

【牛】宮本 翔也

ストレス行動の把握を

近年、アニマルウェルフェア（AW）に配慮した家畜の飼養管理が国際的に求められています。東京オリンピック・パラリンピックでは、畜産物の調達基準に、快適性に配慮した家畜の飼養管理が求められました。今後、和牛などの輸出拡大を行う上では、国際基準を満たした家畜の飼養管理が必要になっていくと思われます。

AWの配慮には健康状態を把握することが重要です。そこで今回は、牛が示す具体的なストレス行動について紹介します。

子牛の柵をかじる行動は、吸乳の不足などの欲求不満から発現しており、好ましくない行動とされています。また、この行動は単飼で多いとされています。一方、肥育牛舎などで飼養スペースが過密状態になると、牛は舌遊びなどの異常行動の発現や闘争などが発生し、生産性の低下を招くことがあります。

AWを向上させるためには、最新の施設や設備が必要

だと思われる方も多いと思いますが、実際にはすぐに実行できることはたくさんあります。例えば、定期的な削蹄による蹄病の予防や、施設の適切な消毒による病原体の拡散の防止なども、疾病のリスクを減らすという観点でいえば、AWの向上につながっていると思います。

（NOSAI岡山 北部基幹家畜診療所技師）



子牛の柵かじり行動はストレス行動の一つ